

## インターバンクの声（2015年6月17日）

米連邦公開市場委員会（FOMC）を控え、為替市場は典型的な様子見の展開になり始めているが、ユーロについてはギリシャのデフォルト（債務不履行）懸念が高まっているだけに依然として価格変動幅が広がったままだ。18日から始まるユーロ圏財務相会合や延期されていた国際通貨基金（IMF）融資の返済期限までに開催されるはずの非公式会合にしても、事態が好転しそうな兆しはほとんど見られない。それでもユーロの現在値は1.12ドル台。3月から4月中旬にかけて1.04～1.05ドル台の安値圏に下落していた時に比べればかなり回復しているとも言える。これだけギリシャのデフォルトやユーロ圏からの離脱の可能性が高くなっても、ユーロへの負の影響が限定的だとの見方が支配的なのだろうか。どうしても思い出してしまうのが、リーマンショックやギリシャの財政危機が露見した時のことだ。当初は大したことになる可能性は低いとの見方が優勢だったが、結果は予想された以上に市場へのダメージも大きかった。今回もまさかの反応には備えておくのが得策だろう。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。